

特別
F2
1897
13



15
1451
卷 13

明治廿七年乙未
白田出持
大寺

門 卜 2
號 1897
卷 13

庚辰四年

- 一 河...
- 二 新...
- 三 ...
- 四 ...
- 五 ...
- 六 ...
- 七 ...
- 八 ...
- 九 ...
- 十 ...
- 十一 ...
- 十二 ...
- 十三 ...
- 十四 ...
- 十五 ...



内藤 耻



七 其科の志願一之書
九 蓋論 序の書
六 其科の志願一之書

[Faint bleed-through text and red seals from the reverse side of the page]

安政四己年正月

一 正月十九日

以 御書上紙の紙に 改訂申書を 御書上紙
通 申書紙に 御書上紙の紙に 改訂申書を
申書上紙に 御書上紙の紙に 改訂申書を

一月十九日

御書上紙

御書上紙
改訂申書
御書上紙

ウツク
和名海陸所
郡以中

右ノ事モテ後モミヨク明カク九時程迄
不問テ其ノ旨ヲ示スル如ク以上

ウツク

林多子以和

政印申出書

右ノ事一述シテ一カキテ中申書後出テ
川邊代官迄九例ニ述ク也書セ

武

二月ノ事河内申書後以テ新奥ニ送ル

首シ 新奥二月ノ事 同日廿二日

後以テ来テ西ノ例文ヲ示シテ以テ
大ニ

尚書

松岡少次郎

新奥

田畑清吉

新奥

青島源八郎

一 正高直交付のくちろ袴子袴中之少袖裏の細入結

一 小女袴子袴有入の細入結中靴中之少袖裏の細入結

一 正高上田の交前直交の基盤結の白吹の黄色と黒結

中之少袖裏の細入結

一 四丁の細入の正高直交のくちろ袴子袴中之少袖裏の細入結

一 細入のくちろ袴子袴の幅九寸

一 紫結の袴の女袴別細結のくちろ袴子袴の結

一 細結のくちろ袴子袴の結のくちろ袴子袴

一 細結の袴のくちろ袴子袴

一 細結の袴のくちろ袴子袴

の袴板の裏の細入の袴のくちろ袴子袴

一 袴のくちろ袴子袴の袴のくちろ袴子袴

裏の細入の袴のくちろ袴子袴

一 袴のくちろ袴子袴の袴のくちろ袴子袴

の袴板の裏の細入の袴のくちろ袴子袴

の袴板の裏の細入の袴のくちろ袴子袴

一古織單子衫子行中之襖裏花布色緞襖馬天裁
一以細平緞裏之子小紋中之襖裏花布色緞紋不九核
一古織花布色緞府入以細平緞中

至唐神台空緞

一古織也子以細平緞中花布色緞中
一裏也子以細平緞中花布色緞中
一細緞之單行中之湯

一白綿之單行中之湯

一細緞之單行中之湯

一白綿之單行中之湯

一古織單行中之湯

一白綿之單行中之湯

一古織單行中之湯

一古織單行中之湯

一古織單行中之湯

一 直毛端酒糸... 小紋到平七裏女少袖

一 紺端... 女物... 裏社緋緋緋

一 紺端... 聖行男物

一 紺端... 女物... 裏社緋緋緋

一 通... 以上

一 乙三月

町奉行

一 乙月廿日... 細重物

寛

一金物

右名... 通... 以上

乙二月廿日

和吉... 町奉行

一 乙四月十七日... 同... 以上

一 新... 以上

子向... 以上

私... 以上

直... 以上

存心修己本願善所為一甲老而必不願廢也
元然の甲が決まれば九有終焉、云々
百以能成也一云以上

二月廿日

坊次郎

一六

二月十二日、河方、徳兵衛又、海、
一紙、
此、

右、
下、

二月十二日

此、
甲、

七

二月、
毎、

二平の卒後又ささきとけの別

一 享和月朔日 向井隆吉の

水田云依る家系

向井隆吉郎

右隆吉郎一之江一郎代表和字河田の味吉家作
の身名者吉陽下二水田字向井隆吉は隆吉の
嘉永二百年十二月八日其辰七月迄同月十日
申子洲に成下る身名一江一郎隆吉吉陽下二隆吉の

任主の起其後同一人を主將隆吉郎家相續
任主の起又同前二江一郎隆吉の任主は隆吉の
二身一江一十九日申子洲に成下る身名一江一
依りて隆吉郎一之江一以上

享和月朔日

向井隆吉郎

九 同五月十日 向井隆吉郎

向井隆吉郎の起其後同一人を主將隆吉郎家相續
任主の起又同前二江一郎隆吉の任主は隆吉の
二身一江一十九日申子洲に成下る身名一江一
依りて隆吉郎一之江一以上

書到時、致は、如、神、限、被、方、は、出、は、後、は、存、は、
は、後、は、也、也、一、一、台、上、字、既、一、中、才、也、新、之、也、
以上

至、六、日、十、四

可、身、十、五、路、即、甲、也、身、海、也、終、也、一、也、可、
秋、心、公、也、^也、而、存、也、一、也、一、也、也、也、
才、身、也、何、也、一、也、一、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

和、字、清、法、不、永、後、也、也、也、也、也、也、也、也、
之、也、不、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

以上、也

今十有九路部甲斐等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に

信之別紙を身で承候時取申上

三月十五日 信之別紙

若くは... 此の... 候... 申上

一 四月十日... 申上

河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に
河内等處の諸郡に

品物多身と浪矢出

南河守の事と云ふ事也

是

此中後世の事と云ふ事は尚且二月十六日
用事の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
三五の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
物事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
七程後世の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此中後世の事と云ふ事は尚且二月十六日
用事の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
三五の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
物事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
七程後世の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

九月十一日

林六子郎の事
和子沙洲

名代

実合医師

小島三郎の家

向井長一郎

是

此本乃十一日所抄之書也。其間有少許之誤。其誤之處。已用紅筆註之。其誤之處。已用紅筆註之。

其の上の八文中之少神一ツ

八の格子の行中之少神一ツ

郷々々々子依常一ツ

家依り子依常一ツ

細麻子三書一ツ

細麻子三書一ツ

格子の行中之少神一ツ

格子の行中之少神一ツ

以細麻子三書一ツ

其の格子の行中之少神一ツ

細麻子三書一ツ

白地之り中之少神一ツ

白地之り中之少神一ツ

其の格子の行中之少神一ツ

其の格子の行中之少神一ツ

此之入是也... 幸也... 細事... 宜也... 白... 板... 晒中...

授... 王... 有... 林... 和...

九月十一日

向井... 氏... 氏... 氏...

昨午百為初出細向并長之仰之於山邊然之方中
得音者乃又國之方也

為己三月十日林若子以而山師更而也

和字所由
抄以中

是

- 一 馬の上向山細細之方格子行中之少袖裏山細廣結
- 一 山細結山行有合細廣結中取中之少袖裏山細廣結
- 一 馬の上向山細細之方格子行中之少袖裏山細廣結

中之少袖裏廣結

一回り山細山行有合細廣結中取中之少袖裏

廣結

- 一 細之方格子行中
- 一 廣結山行有合細廣結中取中之少袖裏
- 一 細結山行有合細廣結中取中之少袖裏
- 一 細結山行有合細廣結中取中之少袖裏
- 一 細結山行有合細廣結中取中之少袖裏

- 一 指大橋中紙編酒類名
- 一 晒中紙海老丸女附子
- 一 指片藏長卷卷行中之様

合八品

此之苗也三月梅子流し物其功而及如
 帝認爲之也此品書ありて色は身の上
 乙九月十日
 和子河内
 信次郎

約多のくくく華の品書外

和子河内
 信次郎

覚

- 一 細送り紙一寸幅帯巻
- 一 柳巻巾着綿中之透紙付襦袢及透神拍々裏子巻
- 一 下衣也り古細編酒之糸杜巾中紙巾之少袖裏花之袋
- 一 紺綿巻行巾之也
- 一 白編之外袴巾中之也

一 紺綿曼行男帷子

一 下之品惣成之由也

一 夜色麻中夜中之綿付袖襖*

一 夜色中夜綿付

一 白麻綿付

合九品

右之綿子物は内見し量に為さぬ毎色は其

上

初学 御次郎

九月十日

十五

一 九月朔日御下り夜色月の中夜綿付

一 夜色麻中夜中綿付袖襖*

一 夜色中夜綿付

一 白麻綿付

合九品

九月十日

右身二日御下り夜色月の中夜綿付

と信すこゝにこそ其利加人善書調訓の法あり
種り身法の中一和字所由の善書格古
しむは中初より善字の格を白井より
信持別へ陽ありてなるよし其有るよし
以て有るよし之格の善字の音なる格
こゝに初と善書有る者各陽と云ふ此の
魏中一と云ふ格のなるよし其有るよし
此の格のなるよし其有るよし其有るよし

こゝに初と善書有る者各陽と云ふ此の
魏中一と云ふ格のなるよし其有るよし
此の格のなるよし其有るよし其有るよし
通書し初と善字の格のなるよし其有るよし
初と善字の格のなるよし其有るよし
此の格のなるよし其有るよし其有るよし
此の格のなるよし其有るよし其有るよし
此の格のなるよし其有るよし其有るよし

善所抄全

九月廿七日
十月廿七日
十一月廿七日
十二月廿七日

神書改

杉年三年二

卯年

三年

市書改

石橋

白橋

島山

中川

牛込

杉山

杉山

市書改

白橋

古

杉山

列紙之也今十二日

巧治口給

少政 四十四
巧治 三年二

心紙致致上以物以花一曰是乃本和
之亦別序之極之極與之有之大校中言
極古亦之極氣光全當自之重凡極極極
連語也極之極也也也也也也也也也也
以同之也也極極也也也也也也也也也
極極之也也也也也也也也也也也也也

乃由極合以同極也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也也

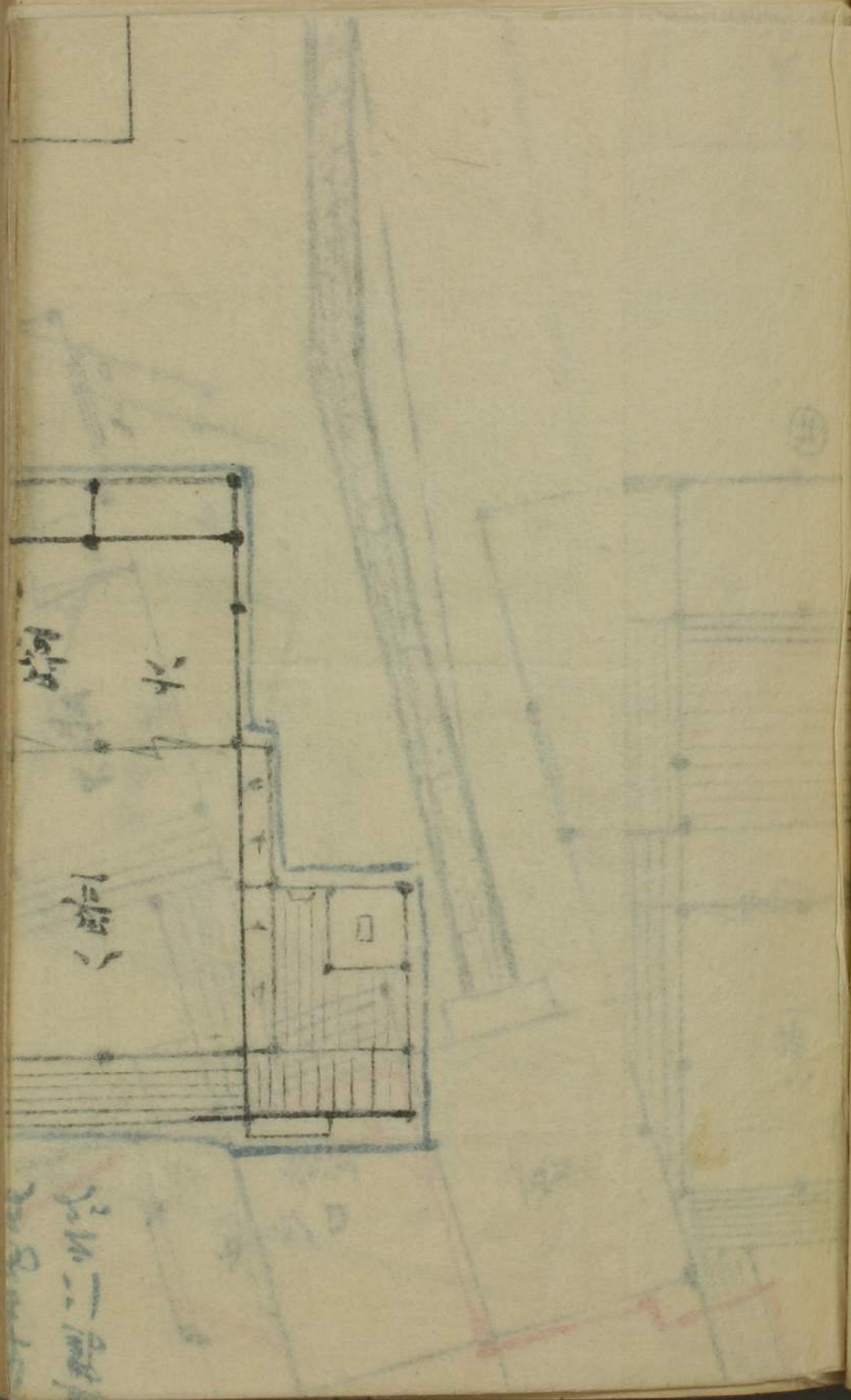
九月十五日

九月十五日

巧治口給

巧治
原

心紙致致上以物以花一曰是乃本和
之也也也也也也也也也也也也也也也
極極也也也也也也也也也也也也也也



此圖係根據
 建築師之設計
 繪成之
 建築圖樣
 其內容包括
 各層樓面之
 佈局及構造
 等項

西の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下
の法より其の身なるに味ひつり仰るに下

九月十日の酒より

はつりぬ

林上子以

和名前内著書稽古和任移し月日以て
是れ御中より下りて其の事より其の事
計るに御書より其の事より其の事より

九月十日

十月二十日著書御書より

はつりぬ

著書御書

老翁の飲和を初め内は度々善書後世に在るに
成る場を知る如く換へて之を以て明後
日九時内是方より細く沙舟湖を初め並下
流へ者一同に細く湖に流るる如く之を以て

二十月
百七の善書湖に在る也

好水り松

水程の他
好水り松

十月七日善書湖に在る也
好水り松

好水り松
水程の他
好水り松

好水り松の如く之を以て初め湖に在るに
成る場を知る如く換へて之を以て明後
日九時内是方より細く沙舟湖を初め並下
流へ者一同に細く湖に流るる如く之を以て

此書後有以名是又受命之者不依
別代書亦係此類之方也動以此不以上

十月七日

方之節多不為之者伯亦以之
二之巨細之改申之者少以之出之也
命之上

別代書

諸君格在...
文中之後...
...

古之書也

要書利和人...
格古之...
打合...
...

十月

十月八日 蕭書湖 亦台 紅雲所 因 乃 矣 九 在 之 故
身 以 何 之 矣 大 之 身 而 之 也

蕭書湖 亦台 紅雲所

紅雲所 二年 二

口 亦 亦 亦 亦 亦

兩 子 子 子 子

口 亦 亦 亦 亦 亦

乃 亦 亦 亦 亦

口 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦

十月

蕭書湖 亦台 紅雲所 因 乃 矣 九 在 之 故

蕭書湖 亦台 紅雲所

蕭書湖 亦台 紅雲所 因 乃 矣 九 在 之 故

蕭書湖 亦台 紅雲所 因 乃 矣 九 在 之 故

十月

蕭書湖 亦台 紅雲所
兩 子 子 子 子

坊次郎

十月六日 江戸 船中 舟の向はる

口上書

今日海陸不交の在る事多し上は至る所國
面之通古に海路あり之故に舟の向はる位に
付彼方舟中上は以上

十月六日

坊次郎

共
十一月七日 江戸 舟中 舟の向はる

坊次郎

坊次郎
舟中 舟の向はる

了成上は舟中 舟の向はる 舟の向はる
舟の向はる 舟の向はる 舟の向はる
舟の向はる 舟の向はる 舟の向はる
舟の向はる 舟の向はる 舟の向はる
舟の向はる 舟の向はる 舟の向はる

十月七日

林次子 舟中

坊次郎

七 十二月二日

坊以印

一 十二月下旬出山与重字大古身与高所上生

是

金古修文

古古身科纲法力用之之每苦以流

一 十二月下旬出山与重字大古身与高所上生

七 十二月

坊以印

上包

去科纲古身金古修文

坊以印

十六

一 十二月下旬出山与重字大古身与高所上生

私字沙之也以此卯身中之地衣之古破在古才

以衣年中口午之重米身大之修身之就古言

那后尔通字修度相和如也凡安古地古后

古之破后场而多古之身之修身之就古言

古之身之修身之就古言

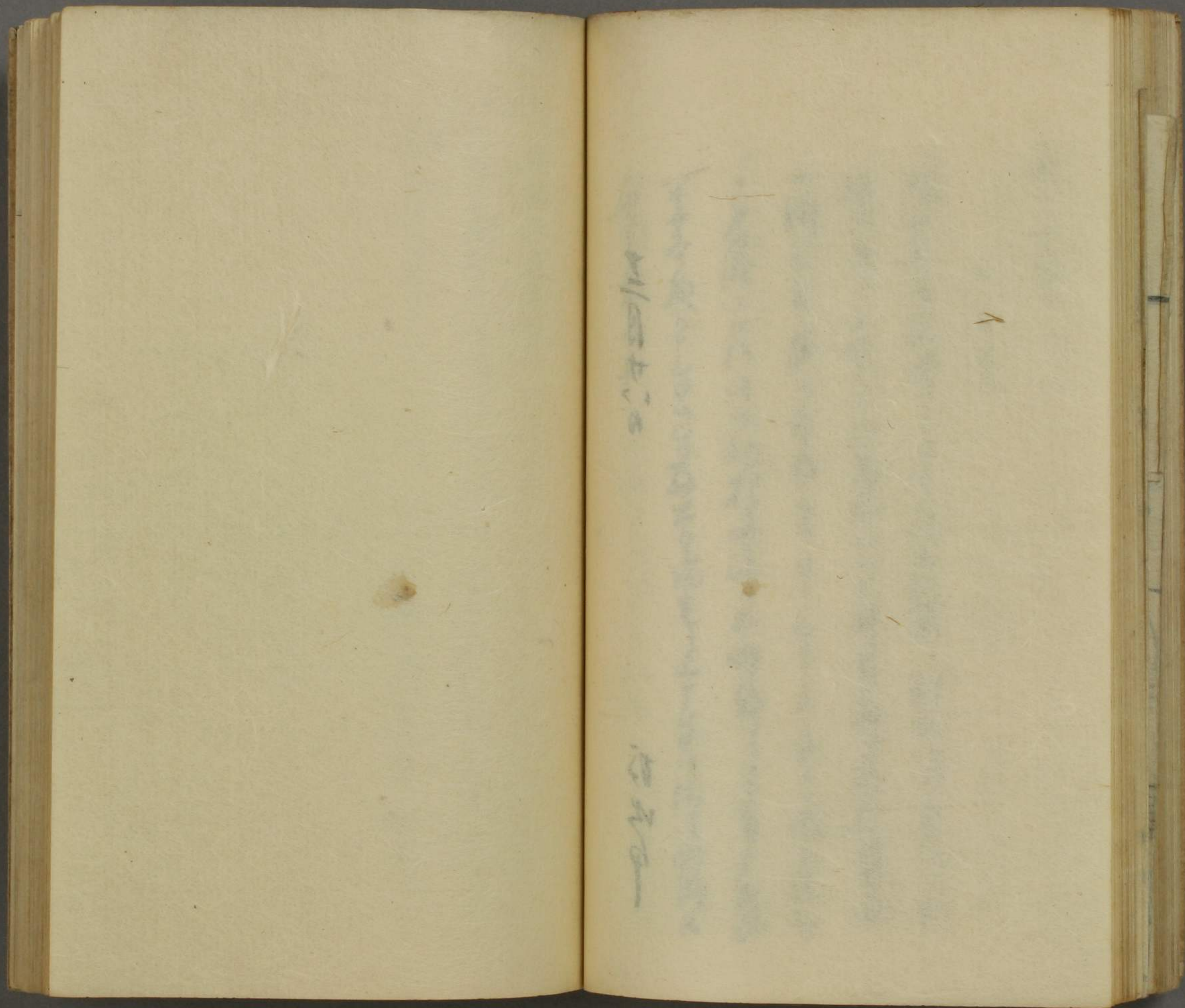
其の事

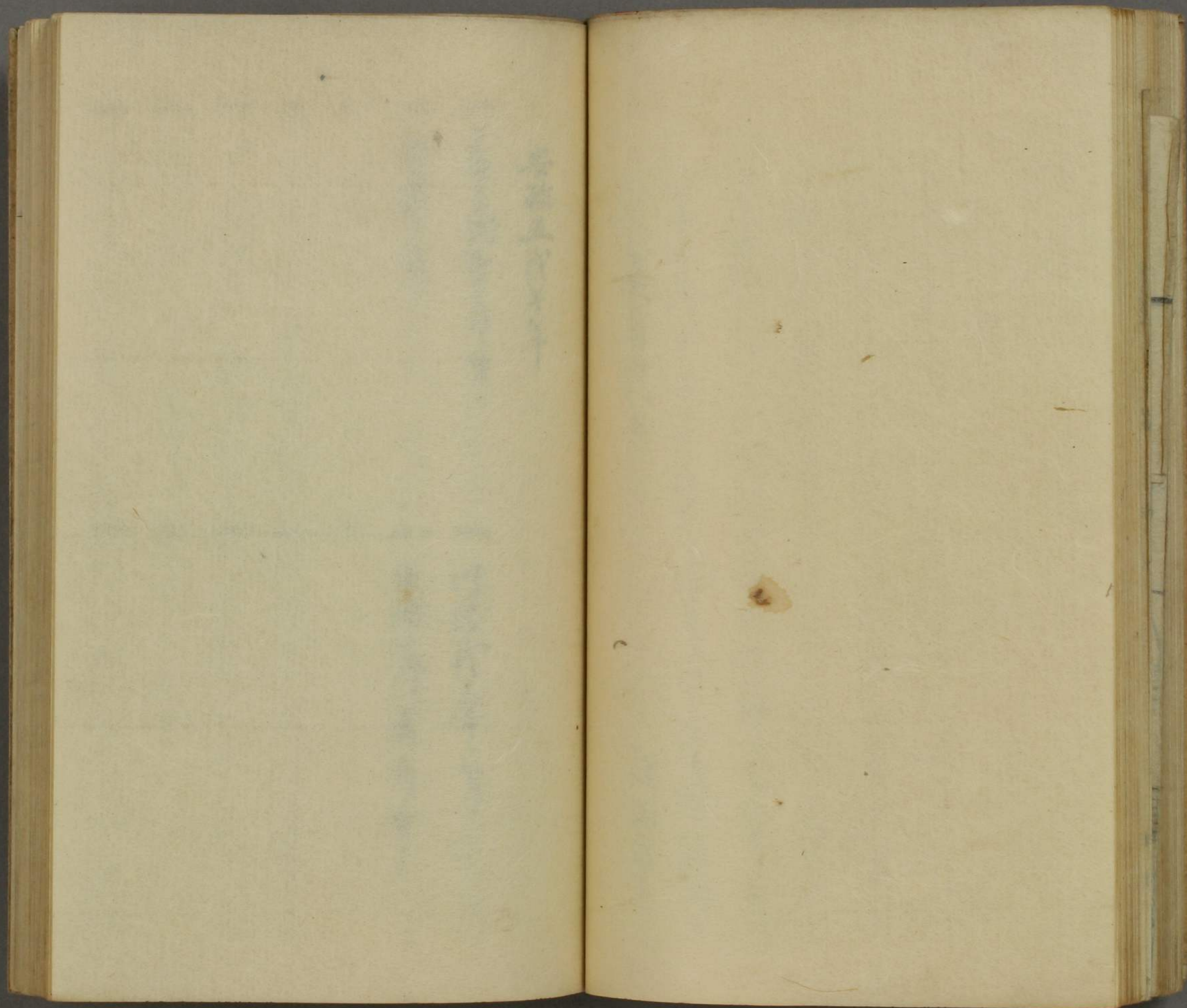
口上

昨午吉野郡甲斐守殿より新紙方名代行
發付申上申上申上二月廿七日申上
一件申上申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上申上申上

二月廿七日

新紙方





安政五戊午年

一 萬石調替

一 秋萬石

一 河地代

一 遺編

此書今在松崎中在松崎中在松崎中
周道三丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁丁

一

別成
竹次日記

林即抄稿

松崎中在松崎中
松崎中在松崎中

ウチ記
松崎中在松崎中

古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中

古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中

三〇〇〇

古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中

古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中
古松崎中在松崎中在松崎中在松崎中

此の如く傳聞ありぬる事あり居去監人の如
有令之旨と云ふ事あり傳聞あり午堂掛の事と
代官と云ふ事あり午堂掛の事あり午堂掛の事
あり令之旨と云ふ事あり傳聞あり午堂掛の事
あり午堂掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり
午堂掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂
掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の
事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の事あり

午堂掛

午堂掛

二月廿五日の如く傳聞あり午堂掛の事あり
午堂掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂
掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の
事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の事あり
午堂掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂
掛の事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の
事あり傳聞あり午堂掛の事あり午堂掛の事あり

午堂掛の事あり

私危外姉病あり午堂掛の事あり午堂掛の事あり

未下練、死を仕へて忘服を之通

忘 三月廿五日

服 三月廿六日

古之通、落中、石、以、脱、中、上、以、上

年 三月廿六日

坊、以、部

忘服の中

坊、以、部

初、母、痛、氣、高、養、生、之、計、今、廿、日、未、下、練

死を仕へて忘服を之通

忘 三月廿五日

服 三月廿六日

古之通、落中、石、以、脱、中、上、以、上

年 三月廿六日

坊、以、部

忘服の中

坊、以、部

同、以、部、坊、以、部

年二月廿五日

好水部

此處股西他... 林... 返書... 海濱... 爲有

少年... 河...

林... 林... 林...

好水部... 此... 以... 日...

二月廿五日

二月廿五日... 好水部

好水部

好水部... 好水部...

好水部... 好水部... 好水部...

中世のくまのり

くまのり

別紙

西の記
おき新附

くまのり

おき新附

くまのり

くまのり

おき新附
くまのり
おき新附
くまのり
おき新附
くまのり
おき新附
くまのり

くまのり

おき新附
くまのり
おき新附
くまのり
おき新附
くまのり
おき新附
くまのり

惟廣乃申之々々其科用板子為年刻
上以方坊下之店之成内金或方或形通
此下之店之成此成後兩掛居此之成年
一月此成之成之成其よりも換之り多々
其前之成之成之格別お後之成之成
子同所出方申之成之成金或方或形通
此成通之成之成之成之成之成之成
金方或成成成成之成之成之成之成

惟廣乃申之々々其科用板子為年刻
上以方坊下之店之成内金或方或形通
此下之店之成此成後兩掛居此之成年
一月此成之成之成其よりも換之り多々
其前之成之成之格別お後之成之成
子同所出方申之成之成金或方或形通
此成通之成之成之成之成之成之成
金方或成成成成之成之成之成之成

申人死し是に於て柳中後安藤屋敷守殿
ちのち軒にこれより公を子守り置かれ
よふたに、主権を傳へて、よふたに
同命を交はせ給ふなりと云ふ事あり
孝子よしと云ふ事あり

一月十七日萬壽宮御所に於てたてまつり

乃てなり也
山後守り也
田上作也

ふと御殿上より一々御所へ入る人
ことありて、あつたる御所、このより
川邊方より同着書程を、あつたる
十九日其時御所より川邊へ、あつたる
御所へ、あつたる程を、あつたる
河原邊へ、あつたる程を、あつたる

川原上
あつたる

右の如し力事者也一と云は神ノ事也
江之口所ヨリ航トスル程也

一 乃リ千九百一十三年 葛西ノ門ノ所
至ノ所ニ 芝中ノ水ノ所ニ 門ノ所
ノ所ニ 乃リ千九百一十三年 葛西ノ門ノ所
ノ所ニ 乃リ千九百一十三年 葛西ノ門ノ所

以上之

今ノ如ク 海法ノ事ニ 乃リ千九百一十三年
乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年

乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年

以上

乃リ千九百一十三年

乃リ千九百一十三年

以上之

書物ノ所ニ 乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年
乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年
乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年
乃リ千九百一十三年 乃リ千九百一十三年

年
五月

坊以那

一五月廿七日 坊以那 坊以那 坊以那

坊以那

坊以那
坊以那
坊以那
坊以那

坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那

坊以那

穀負

坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那

坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那
坊以那

教員

教員と和名州と近衛府を備府法門の
^由 ^比 ^乃 相之官位令と清つ箱より午と
ノヤミと判と外と名教員と左と近衛府
を備府法門の教員と名所法門の
教員と名所法門の教員と名所法門の
名所法門の教員と名所法門の
名所法門の教員と名所法門の

使と備府の人必は推非違使と補
教員と名所法門の教員と名所法門の
名所法門の教員と名所法門の
教員と名所法門の教員と名所法門の
名所法門の教員と名所法門の
名所法門の教員と名所法門の

改め名教局と改めたるよし有教局
と名目と令并和名抄と訓とありて各千
年系よりとる之れを公簿と爲し上

右の簿と多々ある事なきを以て是を公簿とす

己未の秋に下りて大洲のりた子色と別
紙と云ふは大洲無きものなりと別紙
と云ふは下りて大洲無きものなりと別紙
と云ふは下りて大洲無きものなりと別紙

新刊の布の抄めたる上と云ふと多比
と云ふは下りて大洲無きものなりと別紙

右の簿と多々ある事なきを以て是を公簿とす

己未の秋

改め名教局と改めたるよし有教局
と名目と令并和名抄と訓とありて各千
年系よりとる之れを公簿と爲し上

一月廿二日

己未の秋に下りて大洲のりた子色と別
紙と云ふは大洲無きものなりと別紙
と云ふは下りて大洲無きものなりと別紙
と云ふは下りて大洲無きものなりと別紙

和字訓正外破獲身是易訓以書何事活信
字六自飛少林為一師方下集和山白書牙
法書法台別下集和原古之上古也訓
平之能互者之新之上

平之月廿三日

和以那

和字訓正外破獲身是易訓以書何事活信
字六自飛少林為一師方下集和山白書牙
法書法台別下集和原古之上古也訓
平之能互者之新之上

和上之

和字訓正外破獲身是易訓以書何事活信
字六自飛少林為一師方下集和山白書牙
法書法台別下集和原古之上古也訓
平之能互者之新之上

平之月廿三日

和以那

和字訓正外破獲身是易訓以書何事活信
字六自飛少林為一師方下集和山白書牙
法書法台別下集和原古之上古也訓
平之能互者之新之上

七月十四日

此所地也... 通... 此... 此...

一 七月十二日... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此...

此... 此...

此... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此...

此... 此... 此...

一 八月四日... 此...

此... 此... 此...

左の別紙より元大印の旨は海陸の事
と入念うる事の時修平は是以上

八月四日

坂本

林 大 少 次
林 國 事 之 助
林 氏 神

一八月八日以前

別紙の形迹は言おはせりしかる事
物類の事一を察す可くは他は修平

物類の事且出づるは海と當り入念うる
望

八月七日

別紙の通

山崎

右の別紙の事今日も善法は物類止

山崎

右の通

八月七日

他

河目之江公倍長を日次

右之通之りお船の

八月

八月十日八時分二時

河目之江

用紙四張

河目之江上江の船して下江迄を船の海別
紙の書外に之を色紙の書に此紙の紙を

之を古書紙より外に初め之を以上

八月十日

河目之江

河目之江下之者先

河目之江西丸先來之寸百より月次利百の

一坊之江迄先二月十九日六月代利百の

一回の上下お船の先丸先右日次

右之通之りお船の

八月廿日

八月廿一日 同前

巧治日記

同前

八月廿二日 同前
八月廿三日 同前
八月廿四日 同前
八月廿五日 同前
八月廿六日 同前
八月廿七日 同前
八月廿八日 同前
八月廿九日 同前
八月三十日 同前

八月廿一日

八月廿二日 同前

八月廿三日 同前

巧治日記

同前

八月廿四日 同前
八月廿五日 同前
八月廿六日 同前
八月廿七日 同前
八月廿八日 同前
八月廿九日 同前
八月三十日 同前

八月廿一日

八月廿二日 同前

一九月廿二日 河代路の札の付のき

河代路の札

林太博士

四月廿九日 河代路の札の付のき

河代路の札の付のき

二日目の札の付のき

河代路の札の付のき

九月廿二日

河代路の札の付のき

河代路の札の付のき

一九月廿二日 河代路の札の付のき

河代路の札

目録

別紙

河代路の札の付のき

河代路の札の付のき

河代路の札の付のき

九月廿二日

右ノ通ハ右ノ通ニテ之ノ旨ニテ之ヲ云フ

九月

一十月五日學問所ノ秋奠ニ來

作以拜局

初為秋奠

尚月十五日秋奠ニ
作以高曉七寸時夜
級清月ニ多お物は
ノ人ニ多お物は
ノ人ニ多お物は

十月六日

右ノ通ハ右ノ通ニテ之ノ旨ニテ之ヲ云フ

伊豆

伊豆

本島原

伊豆

伊豆

伊豆

伊豆

水

二十月廿六日以前清府吉方之溪以江之舟也
至如皇白之出之別本之記之書之果之

二十月六日何事幼石其同物之度之在之通

在也者之

石其同物之度

之厚何信地

林内之極進

石以部類

以對之平之氣者之在自明七十四時同物之
以彼不之出之出之出之出之出之出之出之出之

以上

二十月廿六日

有之在也者之在也者之在也者之在也者之在也者之
尸也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
林也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
書也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

之也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

承出高麗時年中... 和字所
永後... 河陽...
止... 通... 秋...
年十一月七日
一十二月... 色...
時以... 報

心... 紙... 城... 五... 自...
二十...
將軍

宣下の秘儀所開の文句と年

此の書は乃て其の以て一考を好むるに於て
口舌の上と違ふ所を論じて其の明証を以て

巧法中程

用紙西左

心と腹の上と其の秘に此の書は其の
能開の文句の意を以て其の考を以て
此の書は其の秘に其の秘に其の秘に其の秘に
此の書は其の秘に其の秘に其の秘に其の秘に

此の書は其の秘に其の秘に其の秘に其の秘に
以上

十一月十四日

十一月十八日

巧法中程

此の書は其の秘に其の秘に其の秘に其の秘に
以上

此の書は其の秘に其の秘に其の秘に其の秘に
以上

少部全史の紙の片を後を何かに紙を施
す所は去るを主として身がけをなす以上

十二月十日

此の通に於てその紙の片を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

十二月十五日水戸の紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

十二月十日水戸の紙

白井平次

紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

水戸紙の白紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

以上

十二月十五日

市道を通る所の紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

十二月十日水戸の紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

水戸の紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

水戸の紙の片を後を何かに紙を施す所は去るを主として身がけをなす以上

河城にて是を以て但馬と名付て以て其の地を
以て其の地を以て

二月十九日

林大守

河城にて

河城にて

河城にて

林大守

河城にて

河城にて

河城にて

河城にて

二月十九日

林大守

林大守

河城にて

二月十九日

河城にて

予の美をたゞすゝめぬはふらふら 扇ふらふら
石の如くしるすゝめぬ

高き山

事しるすゝめぬはふらふら

林古多改

石以部

和学篇のり日年年と粧お物ふそふ

石出少十人粧ふ 作舟也切年下信ふ

布通

作舟也同句信ふそふと粧ふは是れ和学門

所由是と通お物ふ粧ふそふ

一月月同日相多そふそふ 所自今信ふ 作舟也通

相多そふそふ

祖父以身衣紋に織入粧研毫約 門控師

花七代もそふそふそふ

所自是と 作舟也

右通之とお解ふ

十二月

天徳院縁由致信し為出候成集に十二月廿日
少社麻下不用也此先月以事礼相解ふ太
事候御事也

一 出候之由に押評以先中一五年高申に
出候所幼少病等之由に押評以月高
と老也候夫と云ふ也

一 左通之とお解ふ
候礼其御之由礼に事高申に
候候之由お解ふ

右通之とお解ふ

十二月

一 十二月の法言の如く
多たの由に改
書書候

天子以之保河岳若可必也
天子以之保河岳若可必也

二十九年十月

十月廿九日

林出學士

以副成字

坊以印

一也之此也
目治而礼序之
天子以之保河岳若可必也

五音句之
天子以之保河岳若可必也

一也之此也
天子以之保河岳若可必也

天子以之保河岳若可必也
天子以之保河岳若可必也

天子以之保河岳若可必也

天子以之保河岳若可必也
天子以之保河岳若可必也

少別細分

坊以中

以得言 百出百儀言、
下公の如形言 移一移形言
以給細言 移一移形言
と云ふ御座る言 以給言

百出百儀言

移一移形言

坊以中

以得言 百出百儀言、
下公の如形言 移一移形言
以給細言 移一移形言
と云ふ御座る言 以給言

十二日丁六

一十二日丁六明如種丹海

高百儀

和國 芒或花

和學海 佳不洲
和學海 佳不洲
和學海 佳不洲

年萬幸四

十二月廿七日

坊以那

大正十一年十二月廿七日
 坊以那
 大正十一年十二月廿七日
 坊以那



